

令和2年度第2回岡山市基本政策審議会会議録

令和2年8月3日（月）

1 開会

○司会 お待たせいたしました。ただいまより令和2年度第2回岡山市基本政策審議会を開催いたします。

本日の司会を務めさせていただきます政策企画課長の榎並でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、大森市長からご挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ

○大森市長 はい。皆さん、おはようございます。岡山市長の大森です。お忙しい中、基本政策審議会にご出席を賜りまして、ありがとうございます。

新型コロナウイルスが、さまざまな議論を呼んでいるところでありますが、当岡山市も7月の中旬から、ほぼ毎日、感染者が出ております。昨日の段階で、計63人ということになりました。感染拡大防止のために、新しい生活様式に慣れていただくよう、是非ともお願いしたいと市民の皆さんに呼びかけているところであります。この週末も少し、まちの中をぶらぶらさせていただきましても、相当出ておられる方が少なくなっているような気がいたします。そういう意味では、感染防止に相当力を入れていただいていることは事実なんです、逆に言うと、経済面は非常に心配になります。4月、5月の落ち込みが非常に大きかったですけれども、少し6月で持ち直したかなというところで、今の状況になっているところであります。

このウィズコロナで、どうやって、経済というか、社会生活をしていくのかというのが、大きな問題となってくると思います。市としても、補正予算を立て続けに行っているところであります。今、消費喚起策ということで、8月1日からはキャッシュレス決済でペイペイを使う場合ですけれども、20%還元をするというようなこともやっております。9月から、政府のマイナポイントでも同じようなことをやっていただくわけですが、こういうことを通じて、少しでも経済がよくなるということを望んでいるところであります。

今日は、その経済・産業面と教育、そして周辺地域の振興、3つの課題についてお話を申し上げたいと思います。さまざまなヒントをいただければと思います。そして、今後の5年間に係るさまざまな指針について、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。

3 委員の出席状況

○司会 続きまして、本日の委員の皆様の出席状況でございますが、5名の委員の方がご都合によりご欠席でございます。なお、委員過半数のご出席をいただいておりますので、本審議会は成立しておりますことをご報告いたします。

本日の議事運営について事務局からのお願いですが、ご発言の前には挙手をいただき、議長が指名した後にご発言いただきますようお願いいたします。

これからの議事運営につきましては、阿部会長をお願いいたします。

○阿部会長 皆様、おはようございます。前回から会長を務めさせていただいております阿部でございます。前回は大変活発なご議論をいただきました。本日も審議にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、会議次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思います。

議事に入ります前に、会議の公開と傍聴の取り扱いにつきまして事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 本日は、現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障がなければ、会議の公開とあわせて傍聴の許可をいただければと思います。よろしくお願い致します。

○阿部会長 本日の審議につきましては特に支障のある事由はないと思われまので、会議は公開といたしまして、傍聴を許可したいと思います。委員の皆様方、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 はい、ありがとうございます。

それでは、本日の会議の傍聴希望者には傍聴を許可したいと思いますので、よろしくお願いたします。

4 協議

(1) 岡山市第六次総合計画「後期中期計画」の策定について

①産業の振興

○阿部会長 それでは、協議に入らせていただきたいと思います。

まず、産業の振興につきまして事務局から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○政策局長 それでは産業観光局で作成した資料3に基づきまして説明をさせていただきます。

まず、資料3の1ページをお願いいたします。

商工の分野の現状についてでございますが、本市の市内総生産は、製造業が14%となっておりまして、全国平均の21%よりも割合が低くなっている一方、卸売・小売業は15%となっておりまして、全国平均よりもやや高いという状況でございます。そのほか、運輸業などでも割合が高いのが特徴となっております、交通の利便性がよく、災害リスクが相対的に低いことから、物流関係の企業等の集積が見られるところでございます。

それから、有効求人倍率につきましては、今年度に入るまでは、ハローワーク岡山管内で2倍を超える高い数値で推移しておりまして、さらにオフィスビルについても空室が減少傾向となっていたところでございます。

しかしながら、今度は課題の部分に入っておりますが、今般のコロナの影響によりまして、宿泊業や飲食業を初めとする幅広い業種で売り上げが減少しておりまして、人々の意識ですとか働き方、生活様式などにも変化が見られるところでございます。

このようなコロナの影響を踏まえまして、本市としては5月、6月の補正予算によって、事業継続支援ですとか、新たな業態への転換支援、こういったことにいち早く着手をさせていただいて、関係団体にもご協力いただきながら、現在さまざまな支援策を打っているところでございます。ただ、今後も先行きが不透明な中で、社会経済の変化に的確に

対応していくということが必要になってきております。

今度は、資料の優位性の部分になりますが、中四国のゲートウェイとしての拠点性ですか、スタートアップ施設ももスタの認知度の高さ、自然災害の相対的な少なさなど、こういったものを優位性と捉えながら、ウィズコロナ、ポストコロナの産業政策を構築していくことが必要になってくると考えております。

今後の施策の方向性としましては、このような変化に対応するための新たな産業の構築のほかに、これまでの構造的な課題である事業承継などにも的確に対応するための地域経済の基盤強化、こういったことにさらに取り組むことといたしております。

続きまして、2ページをお願いいたします。

今度は観光分野でございますが、全国的にインバウンドの増加などで観光客の増加傾向が見られたものの、岡山城や後樂園以外の認知度が低く、市内の滞在期間がなかなか伸びないという課題が見られたところでございます。

また、コロナの影響については、観光産業への影響が大きいということのほかに、今後観光ニーズに変化が生じるということが考えられますことから、その変化を捉えた観光資源の磨き直しやプロモーションなど、観光政策の再構築が必要となっております。

このため、資料真ん中の優位性の部分になりますが、岡山城とともに、日本遺産に認定された桃太郎伝説や吉備路などの歴史的価値の高い資源とともに、中四国のゲートウェイとしての利便性、白桃、マスカットなどの食といった本市の魅力をさらに生かして、効果的なプロモーションを展開していくということが必要となっております。

今後の施策展開の方向性としては、資料左下の部分になりますが、岡山城の耐震工事に合わせたコンテンツのリニューアルとさらなる活用、造山古墳ビジターセンターを核とした日本遺産の資源の活用、今後の観光ニーズの変化を捉えた効果的なプロモーション、こういったことを展開してまいります。

最後に、3ページをお願いいたします。

農業関係でございますが、農業生産については、米・麦が全体の4割を占めておりまして、白桃やマスカットなど全国的に名高い特色ある品目もある一方で、担い手である農家の高齢化が進んでおりますし、1戸当たりの耕地面積が全国平均を下回っているといった現状もあるところでございます。

そのような中で、桃やブドウなどの産地の衰退が懸念されておまして、高品質栽培を継承する後継者の育成が急務となっておりますほか、農地の集積・集約化も大きな課題と

なっております。

一方で、本市の優位性としましては、都市近郊農業を展開することができるということ、それから気候が温暖で災害も相対的に少ないという農業への取り組みやすさがあるということ、それから広大な干拓地や高品質な果樹栽培に適した丘陵地の存在、こういったことが挙げられるところでございます。

今後の施策の方向性としましては、果樹ブランドイメージのさらなる向上や販路の拡大、担い手の確保を図るとともに、農地の集積・集約化を進めて生産性の向上を目指して、儲かる農業への転換に向けて取り組んでまいります。

以上で商工と観光、農業の各分野について触れさせていただきましたが、全体を通して従来の構造的な課題であるとか、コロナを踏まえた社会経済の変化、こういったものもしっかりと捉えながら、本市の特徴や優位性を改めて整理した上で、今後の施策展開を図っていくこととしております。

4ページ以降は参考データということでお配りをしておりますので、こちらもお審議の参考にしていただければと思っております。

非常に雑駁で恐縮ですが、説明は以上となります。

○阿部会長 産業の振興につきまして説明をいただきましたが、内容につきましてご自由にご発言をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。先ほど事務局から説明ありましたように、発言に当たりましては挙手をいただきまして、私の指名の後にご発言をお願いしたいと思います。どなたからでも結構でございます、よろしく願いいたします。

○岡崎委員 国の骨太方針とか地方創生の基本方針ですか、この中でかなり、今の東京一極集中の是正ということが盛り込まれていて、地方への強化というのが、かなり大きな柱にも、今なっています。その中で一番盛り込まれているのが、情報化ということになってきてまして、スマートシティも含めて、地方の中核市、政令市を中心に情報化を進めようという新たな戦略というので、これが出されていますが。岡山市も情報水道とか、15年か20年かぐらい前までは、かなり積極的な方針が見られて、それが大きな柱にもなっていましたけど、最近是全国規模の流れの中で、あまりそういうことは聞かれていません。

恐らく、ここにスタートアップの拠点性の認知度が高いということも書かれています
が、岡山市、音楽配信といますか、オーディオストックさん、昔のクレオファーがすか
ね、それとか、いろいろIT、スタートアップ企業も出てくる中で、まだ一般の人の認知
度というのは非常に低いんじゃないかと思います。せつかく、いろいろやってきた情報イ
ンフラとかスタートアップの芽というのを生かしながら、新しいものを進めていって
いた
だきたいなというのが1つです。

それから、今回の地方創生の基本方針の中には、地方の国立大学の定員増というのが入
っています。これは私どもも、岡山大学さんにさらに力をつけていただきたいなとい
うこ
とも考えているんですが、研究予算も含めて大学への予算というのは非常に、国の予算が
限られているので、ここらもしっかりと地域としても応援をしていったほうがいいん
ではないかなという気がしています。やはり人材を地方で育てて、地方の産業を担うとい
う人
材づくりも大きな力になろうかなと思っています。

以上です。

○阿部会長 事務局のほうから、何かコメントいただくことはございますか。

○産業観光局長 スタートアップについては、昨年8月にイコットニコットに拠点を設け
させていただいて、例えば今現在で言うと15ほど、新しく起業を控えている団体がおりま
す。今、コロナの状況で少し動きが鈍っているところではあるのですが、実は、今
までも成果として上がってきてはいたところなんですけど、おっしゃるとおり、PRのほ
うがまだ足らなかったということが反省点で出てきておまして。これをもう少し、マス
コミ等も活用させていただきながら広めることによって、さらなる創業を誘発させてい
きたいと今考えているところでございます。

それから、大学との関係ですけれども、岡大さんとはインキュベーションの連携をさせ
ていただいているところでございますけれども、スタートアップも含めて、学生に対する取
組みの強化をしていきたいと考えております。そこで競争を生み出すといますか、そ
う
いうところも含めて、やっていければなと今考えておりますので、今日お集まりの大学の
関係者の皆様方も是非ともご協力いただければありがたいと思っています。

以上です。

○梶谷委員 産業、商工も観光も農業も、非常に重要なのが、人材だということを共通で上げておられるような感じがいたします。商工も、事業承継の問題ですとか、IT化といってもITの人材が不足しているということもございます。それから、観光の面も、観光をより発展させていくためには、観光に必要な人材はどういう人材を育てなきゃいけないのかということも出てくると思います。特に、豊かな資源を、本当にコンテンツとして練り上げていく、それを発信して、そこにお金を落としてもらおうと思うと、素材をどう加工していくかというところができる人をどう育てていくかということが必要だろうと思います。

農業も、担い手不足ということですが、今までの農業のイメージだけでは、なかなか次の世代が来ないという中で、いかに新たな農業をつくっていくのか。ある意味で言うと、新しい発想での農業というものを構築していかなきゃいけないと思います。そういった意味では、農業のところにも、どう企業が参入してくるかということも重要になってくると感じております。特に、岡山は資源はたくさんあるんですけども、それをうまく複合的に生かすということが十分できてないと感じますし、農業と観光というのも、恐らくこれから非常に相性がいいものになってくるんだろうと思います。

それから、コロナで急激に減りましたけれども、これからの観光をどう考えるかという中で、量を追っていくのか、質を追っていくのか、それをどうバランスを取っていくかということも非常に重要になってくると思います。密を避けようと思うと、大量に入れるということは、なかなか難しい。だとすると、少数の人がたくさんお金を落としてくれれば、それなりにまた産業が成り立つ。今まで日本というところは、どちらかという量を追っかけて、どちらかという安いものをたくさんどう売るかという発想でずっと来ているんですけども、これからは高いものを、いかにそれを買える人に売っていくかというところにも目を向けながら、そういうベースもつくりながら、安く大量というのも必要だと思うんですけども、その二面性をどうつくっていくかということの視点が要るんじゃないのかなということを感じております。

これからは、岡山にいろいろある資源を本当に生かして、価値に変えていける、そういった人材をどう育成していくか。それをやる上では、異質な人間がよってたかって、どうするんだという場が必要なのではないかと感じています。オープンイノベーションによる知の集積ということが書かれていますけども、このオープンイノベーションが本当にできるような土壌というか仕組みを、行政と企業と金融と大学も一緒になりながらつくってい

って、これこそ岡山だというようなブランドにできてくれば、そこにいろんな人が集まって、岡山のいろんな資源を生かしていくことができるんじゃないのかと感じております。

○阿部会長 杉山委員さん、何か、外部産業界にもおられて、大学にもおられるということで、いろいろとご意見をお持ちだと思います。

○杉山委員 私は、この六次計画のときに、「未来へ躍動するまち岡山」というのに「桃太郎」を入れていただくということをご提案させていただきました。岡山を桃太郎により全国の方に覚えていただかないとどうしようもないと思っています。大切なことは、岡山が岡山のことを覚えていても仕方ないので、一体、岡山が東京とか世界からどう認知されるかという視点を持つべきだろうと思います。第六次計画の前期が終わったわけですが、かなり浸透してきているのではないかと思います。県内最大の造山古墳にビジターセンターが拡充されて、ミュオグラフィを使って、中に何が眠っているのかということ进行调查すると聞いております。そういう意味でも、一連のブランディングに貢献するような戦略をとっていらっしゃると思っています。

岡山の有名なブランドとしては白桃があります。これは農林のほうに絡むんですけども、その桃もブランド育成には連なってきています。広島は世界中の人が知っている。岡山のことについて、じゃあ世界の人が知っていることは何があるのかというと、なかなか厳しいのが現状かと思っています。やはり時間をかけて、桃太郎を核にして広げていっていただいたらいいのではないかなと強く思っております。これは一朝一夕にできるわけではないので、したたかに、「桃太郎」をうまく使っていくという戦略を展開していっていただいたら、今よりも5年後には、岡山の認知度も上昇しているのではないかなと思います。

岡崎委員がおっしゃられたように、これからいろんな自然災害が予想されています。日本という国家にとって、リスク分散は必然だろうと思っています。東京一極集中は、今回の感染症の問題等もひっくるめて、リスクが余りにも高過ぎるので、近い将来、それは政治的な決断をしていただかないといけないんですけれども、分散化に間違いなく向かっていくだろうと思います。その受け皿として、日本の中核都市であり、比較的安心・安全なまちである岡山というのは、かなりの優位性を持っていると思います。将来にそれを見ながら施策を展開して、岡山を売り込んでいくことをやっていっていただいたらいいのではないかなと思います。

それから、農林にとっても商工にとってもそうなんですけど、梶谷委員がおっしゃられたように、これから人口減になっていきます。ベーシックなもの、お米とか必要なものは、安くてもいいものが必要です。しかし、今後産業として育成するものは、いかに高付加価値のあるもの、白桃に代表されるように、高いものでも市場性があるような、そういう高付加価値なものをつくっていくしかないだろうと思っております。農林や商工もそうですが、全ての産業で徹底的に付加価値の高いもの、他のところできないものをつくり上げていくという努力が必要なのだろうと思います。

繰り返しになりますが、今後政策的に必要なことは、高付加価値をいかに達成をしていくのかということです。例えば農林で言うと、白桃とか、マスカットとか、浸透しているものに加えて、2年か3年かけて、あと一つ、二つ、ナショナルブランドをつくっていくということを是非検討していただけたらと思います。

いずれにしても、岡山というのは、ある意味では非常に恵まれていて、何もしないでも何とかなるのではないかという雰囲気非常に強い地域です。大森市長のもとで結構大きな社会インフラを今改革されておりますけれども、恐らく人口減になったら、もう余力はなくなります。逆に言うと、今しかできないこともたくさんあるだろうと思いますので、是非、上手に危機をあおって、岡山市民のベクトルを集中させて、岡山のブランドをつくり上げていただけたらよいのではないかと思います。

○阿部会長 3人の委員さん方、それぞれ産業の分野がご専門でございますので、かなりキーになるようなポイントを指摘していただいたかなと思います。

ほかの委員さん方から何か追加でコメントがありましたらお願いします。

○浜田委員 最初に市長からコロナの話がありましたので、基本的なことですが、7月の1カ月、7月30日までですが、岡大で取りまとめたものがありまして、岡山県内の感染者が50人で、その8割、40人が岡山市の方ということになります。感染者は、20代の人がちやうど半分ということでありまして、40代以下ですと全体の8割が40代以下ということで、やはり若者が中心に感染してるということになります。

感染の原因ということなんですけど、県外で感染した方が24%、4分の1ぐらい。それから、接待を伴う飲食店などでの感染者の濃厚接触者ですね、感染者の濃厚接触者が6割ぐらいということで、この両方で8割ぐらいを占めております。感染経路不明は2割弱とい

うことです。保健所の努力も、大変な努力もおありになって、クラスターも一部で発生してるんですが、保健所の努力などで、クラスターとか濃厚接触者の把握はできていると考えます。

したがって、非常に油断できない状況でもありますし、それから全国ニュースなどを見て、市民の方、かなり不安になって、市長さんがおっしゃるように、かなり消費者マインドも冷えてるという感じがあるわけですが、油断できない状況ではあるが、そんなに過度に恐れるべき状況では、岡山の場合はないと認識しております。

したがって、できるだけわかりやすいメッセージといたしますか、これ、我々も協力しないとイケませんが、わかりやすいメッセージを出して、本当に過度に恐れないということを考えていかないといけないかなと考えています。

それから2番目に、産業振興ということで、医療とか介護も、ある種、産業の側面もありまして、資料によりますと、市内のGDPの1割以上、あるいは従事者数の1割以上を医療とか介護は占めているということで、医療・介護、岡山市のある種ブランド、非常に優れた面ということになると認識しています。

ところが、ご案内のとおり、コロナ禍の問題で医療機関もかなり収益が落ちているというのがありまして、外来の患者さんも入院の患者さんも落ちているということがありまして、収益がかなり落ちている。もともと利益率が低い産業ですので、非常にブランド価値はあるんですが、ちょっと心配な面があるということでございまして。先ほど来、委員の方が言うように、高付加価値の産業を目指さないといけないという面も多分あると思うんですけれども、この状況の中で少し推移を見守って、何とか産業としての医療・介護を守るということも必要かなと考えております。

○前野委員 岡山市の優位性というところで、ゲートウェイというのがあるんですけれども、ともすれば、私が思うに、岡山市は岡山駅が乗り換えするところだけになってしまいがちな点が多々あると思うんですね。ですから、岡山は、ここに、優位性の中にもあるように、岡山城であったり後樂園であったりとか、歴史・文化といったもの、あるいは食資源とか、いろいろあるので、そういったところをもっともっと活用して人を増やす、そういったことを考えていただいたらいいんじゃないかと思えます。

今日聞いていて、すごく気になったのが、資料の参考データですかね、これの25ページを見ますと、25ページの資料③と書いてあるんですけども、これが、農地面積と農家戸数

の推移ということで、随分、農家の戸数が右肩下がりで下がっていつているんですね。これ、平成27年ですから、ちょうど5年前ですね。ということは、このままでいくと、じり貧な状況になってくる。なおかつ、耕作放棄地というのも平成17年から平成27年で、10年間で2.7%、約3%近くも増えてきているということで、農林水産のこういった現象というのが、岡山市にとっては今後かなり打撃になっていくんじゃないかと考えます。

もう一つ、私、防災が専門なんで申しますと、例えば耕作放棄地とか山林が荒れてくると、雨が降ったときに、保水能力がどんどん低下していくわけですね。そうすると、水害、昨今、熊本のほうであったりとか東北のほうでも、すごい大きな水害が起きてますけれど、そういったときに対応し切れなくなるということが起きると思います。特に、岡山市は、笹ヶ瀬川であったり足守川であったりとか、2年ほど前に決壊して大きな被害を受けた砂川であったりとか、非常に私が思うに危険性の高い河川がありますし、そういったところを少しでも水害を低減させるという意味からは、こういった耕作放棄地であったりとか、そういった農家さんが手入れするということが非常に重要かなと思います。ここが今後減少しないような取り組みといいますか、そういったことを是非お願いしたいと思います。

特に、耕作放棄地も、集約したりとか、いろんな工夫をすることによって、外から移住者にしっかり入ってきてもらうような工夫をすとか。そうすることによって、人口も増えるでしょうし、コロナ対策にも、そういう農業に従事する方は、街中に通勤したりとか、そういうことも必要なくなるので、ある意味、コロナ対策にもなるのかなと思います。そういったことを是非考えていっていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○塩見委員 次の農業のときでもよかったんですけど、私の地域は、米をつくるのと、それから梨ですね、ヤーリーとか、昔からの梨と、それからブドウをつくってるんです。それで、米のほうは、私もできないので、委託先がありまして、その委託先が多くの、できなくなった家のものを今つくっています。それから、ブドウについても、今やっている方は非常に高齢化してましてね。それで、その家を見てみましても、息子や娘が、それじゃ農業を継いでいるかといったら、継いでなくて、お勤めしながらちょっと手伝っているというぐらいのところなんですね。ですから、後継者の育成が大切なんですけど、家族が継がないんですからね、これも儲かる農業にして、そして後継ぎができるような方策が非

常に必要かなと思いますね。それから、米のように農地、丘陵地帯のブドウ畑を集約して、それを委託先に出してでも、持っていくということも必要ではないかなと私としては考えております。

以上です。

○赤木委員 観光のところで、資料の18ページの岡山市に関する認知度という資料に関して質問させていただきたいんですけども、令和2年6月実施の観光客動向アンケートということですが、岡山市に実際に来られている、これは岡山市在住者以外に対する認知度調査なのか、それとも岡山市の人も含めての認知度なのか、その点を、まずお聞かせいただけませんかでしょうか。

○産業観光局長 これは、岡山市外の方に対して調査を行っての結果でございます。

○赤木委員 はい、ありがとうございます。平成27年度と比べて、令和2年度において、目玉であるはずの後樂園と岡山城、どちらも認知度が下がっているというのは、非常に問題があるのではないかなと思いました。これは危機的なことだかなと思いますので、岡山城、後樂園、セットで、岡山にこんな見どころがあるよというのを強く日本中に、あるいは世界の人に出していかないと、発信していかないと、本当に宝の持ち腐れになってしまうのではないかと感じて、この資料に対して大変、今ショックを受けたところです。岡山市外ということでしたけれども、意外に岡山県内の人も多くいらっしゃるかもしれないと思うのが、非常に細かいところにちょっとずつ認知度が入っていて、岡山県内の人にとって、岡山市がまず魅力的で、こんなものもあるんだという情報発信がもっと広くできていけば、それがまた県外の人にもつながっていくかもしれないなという点があります。

あと、今ここで上がっているものが幾つかセットになって巡れるとか、複合的に意味を持つ、それこそ全ての局面で言われている、新しい価値づけをしていくということが確実に必要になっていると思われまます。例えば、幾つかの美術館などは、既に岡山のカルチャーゾーンということで連携を図っておられたりしますが、そういったものと岡山市の芸術交流のような大きなイベントと、どのように関連させていくかというのは、非常に大きな課題になっているんじゃないかなと思います。例えば、犬島の精錬所美術館なんか、瀬戸内国際芸術祭のときには非常に多くのお客様が来られているはずですので、それ

と岡山市が持っている、ほかのさまざまな観光資源、歴史的なもの、文化的なものに関して、いかにつながりを見せていくかというところをこれから是非取り組んでいただけたらと思っております。

○片山副会長 観光のことですが、岡山の特徴ある観光ということを考えていかなければいけないと思いますが、今まで、ここ何年間、ムスリムの人たちを受け入れるということで、岡山市だけではなくて周辺の地域とも連携して、やってこられたと思います。ムスリム、宗教的なこともありますし、なかなか受け入れが難しいんですけども、人口的には世界でかなりの数がいらっしゃいますし、そういう方たちを受け入れるというのは、いい考えではないかと思ひ、今までせつかく何年間か、岡山市としてやっていらっしゃいましたので、これを続けていくことによって、ムスリムの人たちが岡山に来れば非常に快適に旅行ができる、快適に過ごすことができるというような、そういうものをつくっていただけるといいと思います。せつかく始めたムスリムの観光なので、是非継続していただけたらいいと思っております。それが、ひいては将来、ブランドとまでいくかどうかわかりませんが、一つの岡山での受け入れの大きな柱になるんではないかと思っております。

それから、農業のことなんですが、人手不足ということが非常に大きな問題で、今も技能実習生がたくさん来ていると思います。多分、これからも技能実習生は来ると思ひますし、また特定技能ビザというのもしまりまして、これはあまりさつさと進んでないようなんですけども、いずれにしましても外国人の方が技能実習生または特定技能ビザで働くということになるかと思ひます。人手不足をそこである程度解消しようということになるんではないかと思ひます。日本が選ばれる国、また岡山を選んでいただくということになったとき、岡山でそういう技能実習生や特定技能ビザで来た人たちが快適に過ごせるような、そういう岡山市というのを考えなければいけないと思ひます。

○阿部会長 片山委員さんならではの新たな視点からご指摘いただきまして、ありがとうございます。

前回、市長さんからご発言いただきましたが、今回も何かございましたらお願いいたします。

○大森市長 いろいろご指摘どうもありがとうございます。まず、浜田先生のおっしゃ

った新型コロナウイルスの関連、どうしても頭から離れないので、そこを少しコメントさせていただきます。よろしいでしょうか。

○阿部会長 はい、どうぞ。

○大森市長 浜田先生、過度に恐れるなというお話をされた。私も、そのとおりだと思います。実は今日、今フロリダのマイアミに住んでいる友人から連絡がありまして、彼らは感染者、全体の中で5%の人が感染しているらしいですね。東京を見てみると、1,400万人の中の1万4,000人ということですから、0.1%。じゃあ、岡山についてどうかというと、72万人中の63人ということですから、0.01%。これが少ないからどうというのは必ずしも言えないと思うんですけども、特に薬が、本当に効く薬があるのかどうかという点で、高齢者を中心に相当やはり怖い、そのとおりだろうと思うんですが。

私、浜田先生というか、岡山大学の医学部系の方にも是非お願いしたいのは、皆さん、感染したくない、どうすれば大丈夫なのか、もちろん100%大丈夫ということはないかもしれないんですけど、専門家の目で、そのように発言をしていただくと、市民の皆さん、県民の皆さんは、非常に納得されるのではないかなと思います。今テレビをつけると、いろいろなところの行政の長がさまざまな話をしているんですけども、そこにどれだけの客観性が本当にあるのかというのが、よくわからない状況になっているんです。私も発言をするときには、必ず保健所長の話聞きながらやらせていただくんですが、やはり情緒的な部分がゼロかということ、それはそうじゃないことにもなってまいります。だから、今日の基本政策審議会の話と少し違うんですけども、岡山大学の医療資源、これだけ有名な岡山ですから、そういった専門家の立場でご発言をいただければなと思っております。

それからあと、杉山先生のおっしゃった桃太郎、日本遺産になり、造山古墳もビジターセンターは整備させていただきました。これから造山古墳そのものも変えていきますし、千足古墳はそろそろ完全にオープンの状態になっていきます。確かに、一朝一夕で急に世の中にこれが有名になるわけじゃないかもしれませんが。先ほどの赤木先生の資料ではありませんけれども、認知度の中では0.3%という状況であることは間違いないんですけども、徐々に徐々にでも、いろんなことを繰り返しながら、岡山城、後樂園の次は、やはり私も、旧吉備の王国の話なんじゃないかなと思っているところでもあります。その点は、やっぴいかなきゃなと思っています。

そのほか、東京一極集中の是正とか農業の付加価値とか、ご指摘の点、もうそのとおりでありますので、それらに向けて、我々としても施策の充実を図ってまいりたいと思います。

○阿部会長 ありがとうございます。今日も活発なご議論をいただきまして、大分時間が切迫してまいりました。いろいろご意見いただきましたが、産業、それから観光の関係、つまりはその地域が他地域に対してどれだけの比較優位を持っているかという、そういう資源を発掘して、それをいかに売り出すかということではないかと思います。そういう意味で、岡山は30年以上前に、瀬戸大橋が開通して中四国の広域交通の拠点になるということで、大いに発展が期待されたわけですけれども、それから30年ということで、産業面では十分に構造が変わって、新たな産業が発展していく時間が十分にあったのではないかと思います。

今回お話を伺っておりまして少し気になりましたのは、そういった過去からの動きを十分に検証して、その中で何が問題で、これからどういうふうにしないといけないかということ、それを議論しないとけないという気がいたしました。是非、事務局のほうで再検討していただければと思いますので、よろしく願いいたします。

②周辺地域の振興

○阿部会長 それでは、次の周辺地域の振興について、テーマを移していきたいと思えます。事務局から説明をお願いいたします。

○政策局長 それでは次に、資料4に基づきましてご説明をさせていただきます。

まず、1ページをお願いいたします。

まず、周辺地域の現状についてでございますけれども、このグラフは点線が14歳以下の年少人口の割合になっておりまして、実線のほうが65歳以上の老年人口の割合の推移となっております。この四半世紀で高齢化率は、本市全体で左下の12.3%から右側の24.7%に上昇しておりますが、例えば旧御津町の区域では36.9%、旧建部町の区域では43.3%にまで上昇しておりまして、周辺地域では地域社会の担い手の確保が特に課題となっておりますのでございます。

次、2ページをお願いいたします。

本市としては、このような周辺地域を対象としまして、地域課題を解決するコミュニティビジネスの創出を支援するために、2年前の平成30年度に地域の未来づくり推進事業補助金を創設しまして、地域振興基金を活用し、1事業当たり、ソフトで上限1,000万円、ハードで上限1,500万円の補助を行ってきたところでございます。

次の3ページのほうに補助事業の一覧がございまして、これまでご覧の10件を認定してきたところでございます。地域の農産物の加工・販売ですとか高齢者の生活支援、こういったものが含まれているところでございますが、幾つか簡単にご紹介いたしますと、例えば生活機能維持の面では、項目1番目の東新田安心生活応援ボランティアの会ですとか、あるいは9番目のシニアサポート倶楽部「ねこの手妹尾」、こういったものは高齢者の身近な生活サポートを有償ボランティアで行うといったものになっております。

それから、地域活力創出の面では、例えば4番の株式会社FLC design、こちらの事例は、東京から旧御津町の五城地区に移住をされたIT事業者の方が、古民家を活用した宿泊事業などに取り組まれているというものでございます。それから、次の5番目の御津お正月研究会、こちらの事例は、もともと地域おこし協力隊の方だったんですけれども、任期を終えた後に定住されまして、麦でつくったストロー、麦ストローの商品化、こういったことに取り組まれているというものになります。

次、4ページをお願いいたします。

地域おこし協力隊事業でございますが、こちらは都市地域から過疎地域等の条件不利地域に生活の拠点を移された方を、市が地域おこし協力隊として1年間から3年間程度委嘱をして、例えば地場産品の開発・販売ですとか、農業への従事、住民の生活支援、こういった地域協力活動を行っていただくという取り組みになっております。本市では平成28年度から取り組んでおりまして、これまでに13名の方が隊員になっていただきまして、既に8名の方が任期を終えておられます。そのうち6名の方が地域に定住されておりまして、その中で先ほどご紹介したような麦ストローの商品開発といったような好事例も出てきているという状況でございます。

次に、5ページをお願いいたします。

この5ページのグラフは、コロナの緊急事態宣言下の5月の時点で、3大都市圏に住んでいらっしゃる方に、地方移住への関心がどのように変化したかを問うたものでございます。灰色の部分の、変化なしと回答された方が最も多かったわけではあります、それで

も関心が高くなった、あるいはやや高くなったと回答された方が全体で15%ほどいらっしゃいまして、年代別では特に20歳代や30歳代、こういった部分では2割を超えているという状況でございます。

右側のグラフになりますけれども、東京23区の20歳代に限定をすれば、35.4%の方が関心が高まったということですので、つまり3人に1人以上が地方移住への関心が高まったということでございます。したがって、コロナの影響下で地方移住への関心が大幅に高まっているということが、こちらのグラフからもおわかりになるかと思えます。

次、6ページをお願いいたします。

こちらのグラフは、地域別のテレワークの実施状況でございます、全国的には、赤い部分、ほぼ100%テレワークになったという方が1割以上となっております、さらに東京23区に限定をすれば2割以上、したがって5人に1人以上が、ほぼ100%テレワークを行っていたという状況になっております。したがって、コロナを契機としてテレワークが浸透して、テレワークが新たな日常、ニューノーマルとなる可能性があるということがおわかりいただけるかと思えます。

下のほうに書いてありますけれども、これまでは居住地が仕事に制約される面が大きかったわけですが、テレワークによって働く場所の制約が解消されれば、自然や文化といった生活環境が磁場のように働いて、中山間地域に人々が引き寄せられ、大都市圏と優位性が逆転するというパラダイムシフトも起こり得るのではないかというふうに考えているところでございます。

最後、7ページでございます。

まとめ的なものになりますけれども、まず「1. 現行の取組」としましては、先ほどご説明したコミュニティビジネス支援のほかに、必ずしも周辺地域限定ではありませんが、創業支援や移住支援などがありまして、また都市機能にアクセスするためのコミュニティバスですとかデマンド交通の支援、こういったさまざまな取り組みを行っているところでございます。

次に、真ん中の2番、社会環境の変化としましては、従来からの構造的な課題として、少子・高齢化に伴う地域社会の担い手の減少がありまして、それから今回のコロナに伴う変化としては、東京圏在住者等の地方移住への関心の高まりですとか、テレワークの普及による働く場所の制約の解消、こういったことがあるところでございます。

その上で、3番の今後の方向性ですけれども、このような環境変化を踏まえまして、今

後、外部の人材や企業等をより一層取り込んでいくために、ターゲティングや関連施策のパッケージ化ですとか、公民連携の体制づくりを行っていくほか、受け入れ側のコミュニティ組織の法人化、こういったことも必要になってくるのではないかと考えているところでございます。

それから、コロナに伴う税収の下振れリスクというものも存在しますが、そのような中であっても、必要な地域振興施策については継続的に実施していくことが重要ではないかと考えているところでございます。

説明は以上になります。

○阿部会長 先ほど、農業についてもご意見をいただきましたが、改めてご意見いただければと思います。どなたからでも結構でございますので、ご発言お願いいたします。

○梶谷委員 周辺地域の振興、本当に高齢化という中で、若い人が少なくなってきて、比率的に少なくなってきているということで、大変な状況だと思います。そういった中へ、地域おこし協力隊、外部の人が入ってくるということは、非常に刺激になるんだろうなという感じしております。ただ、その方々が定着して、その地域全体の振興につながってくるかどうかというのは、今住んでおられる方々が改めて、自分たちの地域をどうやってやろうと奮起していただけるかどうか、結構大きいのかなと思います。

そういった意味では、ここはいろんな施策で行政がやれることを書いてありますけども、周辺地域のコミュニティを改めてどう再生していくのか、外部から来た人と既存でそこにおられた方が、どう関わり合いながら、今までの人が自分たちの地域は捨てたものじゃないぞ、外部からも来るよと、もう一度、自分たちも頑張ろうと。そのためには、場合によっては、結構人口が減っているの、そこにおられた方の後継者というか子供が、結局はその地域を捨てて出ていっているのも結構多いと思うので、改めて自分たちの子供を呼び戻して、よそから来た人と一緒にここを何とかしようじゃないかというようなところにいかないと、なかなか外部の人だけで維持していくというのは難しいのかなと思います。

そういった意味で、行政として、この地域おこし協力隊を活用しながら、改めてそれぞれの周辺地域のコミュニティというか、そこに暮らしている人自身がそこに誇りを持って、そこで暮らす。それが逆に言うと、こういう時代の中で魅力あるものだというのを、

どう発信していくか、そのつくり込みが要るような気がしています。恐らく、それができないと、なかなか東京の人がコロナで少し地方へ移住という関心を持って、それが本当の意味での行動によって、そのまま定着していただけるかどうかにはつながってこない可能性がある。感染が怖いから地域に行こうという消極的な地方移住ではなくて、地域が本当に魅力だから行こうというように、どのように組み立てていくか。そこが地域のコミュニティとしての人間関係をどうつくっていくか、そこがおもしろいというように、どうつくれるかが鍵かなということを感じています。

以上です。

○岡崎委員 御津金川地区で非常にもったいないなと思うのは、福渡とそれから金川のJRの駅がございいますが、これが非常に川と山に挟まれた非常に狭いところに駅があるので、その駅前の住宅でありますとか施設集約というのがなかなか難しい状況にあらうかなと思います。恐らく、岡山市から考えて、JRで通えれば非常に近い地域でもありますので、ここ、住宅地としては非常に魅力的なものになろうかと思いますが、駅が非常に、駅前というのが非常に限られているということで、その可能性が今なくなっているのかなということを考えます。難しいんですけど、もう少し開けた地域に駅と住宅地、商業施設などが一体的に設けることができるのであれば、それが非常に大きな点になる。それが不可能なら、バス路線も含めた、交通機関もどんどん、バスも含めて乏しくなっていく中で、まちの中心部へ働きに行けるという可能性を失っていくと、そこからどうしても離れてしまう人が増えるのかなという感じがしています。その意味では、教育や福祉の面でも同じかなと思いますので、非常にもったいないなと思います。

あともう一つは、これからサプライ・チェーンの国内回帰とかいろいろ言われている中で、岡山市にはほとんど工業団地の、空き工業団地というのがないんじゃないかなと考えていますので、こうした、例えば瀬戸内に今、村田製作所ができて、恐らく西大寺地域などは、そこで働く人たちの集住といいますか、アパートができたり、そこで働いて通う人の住居などができているとも聞きますので。御津、それから建部、灘崎あたりも、そういうことが可能なのかなと。やはり働く場所というのが、1つ必要なのかなという感じはしています。

○阿部会長 周辺地域のことで、聞いておりました気になりましたのは、こういう事業を

やっていますということと並べられているんですが、これらを具体的に検証して、どういう成果があった、あるいは課題があったということを常にレビューしながら、次を進めていく必要があると思いました。そういった成果についての検証は、何か分析はされているんですか。

○政策局長 今回、2事業について主にご説明をさせていただきましたけれども、例えば4ページのほうに地域おこし協力隊というのを書かせていただいております。これまで13名の方が隊員となられて、既に8名の方が任期を終えられている。その8名の中で6名の方が地域に定住されているということですので、定着率としては大体7割超という状況になっております。これ、全国の数字で言うと、大体6割程度が定着するというデータがありますので、人数自体はかなり少ないんですけれども、定着率自体はそれなりに高い数値になっておるのかなと思っておりますので、そういったことを踏まえながら、先ほどご指摘のあった地域コミュニティの活性化ということとあわせてやっていかないとけないというご指摘、まさにそのとおりだと思っております。

3ページを見ていただくと、10件、これまで認定事業があるというお話を申し上げましたけれども、団体名のところに地域密着型団体というものと、あとテーマ型団体というものがあります。地域密着型団体というのは、どちらかという地域コミュニティに近いものでありまして、テーマ型団体というのが、NPOであったり株式会社であったりというものですけれども、10件中、大体5件が地域密着型になっておりますので、こういった事例も横展開していきながら、さらにコミュニティの活性化というものを図っていきたいと考えております。

○阿部会長 岡崎委員さんからご発言ございましたけれども、周辺地域との関係を考えるときに、岡山市は岡山県南地域の広域的な拠点都市ですから、もう少し大きな範囲で考えた上で、市の周辺地域の位置づけを考えていく必要があると思います。そのあたりは、周辺地域との連携あるいは話し合いとか、そういったことは、どういうふうにされてますでしょうか。

○政策局長 はい、会長がおっしゃったとおり、岡山市単体ではなくて、周辺地域と地続きになっておりますので、そういったところと連携して対応していくというのは非常に大

事なことだと考えております。

説明にはなかったんですけども、移住施策に関しても、岡山の連携中枢都市圏というものが今ございまして、その連携中枢都市圏周辺の市町村を含めた形で東京に移住の相談窓口を置かせていただいております。周辺を含めた8市5町で共同の相談窓口を東京に置いて活動しているということもございまして、そういった周辺自治体との連携というものをさらにほかの分野にも広げて、地域全体を活性化していけるように引き続き検討していきたいと考えております。

○阿部会長 ほか、委員さん方から何かご発言ございますでしょうか。

○浜田委員 資料の1ページ目にあるように、地域社会の担い手確保が課題ということだと思うんですが、要するに若い人たちをどうやって取り込んでいくのかということと、それからもう一つは、例えば建部とか御津で4割が高齢者だという話なんですけれども、65歳というのは、今すごい元気なので、高齢者、特に若い高齢者の人たちをどうやって取り込むか。若い高齢者、そもそも社会参加意欲も非常にありますので、そういう両面からの対応が必要ということかと思えます。

医療とか介護の世界では、地域包括ケアという考え方で、岡山市はかなり先進的といえますか、4つの区ですけども、全体を6つに分けて、かなりきめの細かい、多職種、いろんな職種が集まって連携するといったことをされてますし。それから、その延長上で、地域包括ケアというと高齢者だけみたいな話になるんですけども、それ以外に例えば医療的なケアが必要な子供とか、ひきこもりとか、精神障害の方、いろんな地域、いろんな問題がありますので、地域共生社会というんですか、ともに生きる社会をどうやってつくるかということを中心に、ここ数年来、先進的に進められてるよう認識してまして。今日も幾つかの事例、取り上げていただきましたけれども、そういう先進的な取り組みを今後とも続けていっていただければなと考えています。

○杉山委員 私自身も田舎の出身なので、すごく心を痛めています。御津、建部の方たちをどうするのかということで、とにかく農業の規模が小さいというのが非常に大きな問題なので、大規模に集約させていくような、そういう施策をとっていただく必要があると思います。恐らく、時間が経てば結果的にそうなってしまうだろうとは思いますが。農業就業

人口のデータを見ると、全国で7位ぐらいで、農業者の数だけはいけれども、経営している農地が小さいというのが現状だろうと思いますので。JA岡山も、今度1つにまとまりますので、そういうことも含めて、御津、建部あたりの農地については集約化をしてしまおうということを、積極的に推進していただけたらと思います。

○阿部会長 市長さん、何かございますか。

○大森市長 はい。阿部会長がおっしゃった、何をやったかというよりも、どういう成果が出たかというところ、ポイントなんだろうと思うんですが。実は、合併をした際に基金を増設していて、それが35億円ありました。周辺地域を活性化させるには、それを相当の高率の補助でお貸しをする、お渡しをするということで、ビジネスが動くのではないかなというように思っていたんですが。それが、10件という形で、件数はある程度出てきていますが、それにしても、どんどん動いているという結果にはなっていないだろうというように思っています。もちろん、コミュニティビジネスだけじゃないし、先ほどの農業の問題、そのあたりが解決しないことには動かないというのは、よくわかるんですけども。したがって、これらの道をどのようにこれから進めていくかというのが一つのポイントなんだろうなと思います。

ただ、ここの中に書いてないんですけども、みんな、周辺地域の人たちの足がなかなか確保できなくなっている。公共交通の問題等々も、そのあたりも非常に大きな問題として対応していかなきゃならないという感じになっているところであります。地域包括ケア、そういったところは充実させているものの、周辺地域の方にとっては、まだまだおっしゃりたいことは多くあるんじゃないかなというように思っています。

こういう中で今、1つ、とても心配なのは、新型コロナウイルスによる企業の経営が非常に厳しくなっている中で、税収がどうなってくるかということでもあります。そういう面では、来年、再来年の税収がぐっと落ちていく、こういう中で、市政運営の中で、この周辺地域をどういうふうに持っていきのいいのかというところが、私としては今非常に心配なところであります。いただいたような意見を参考にしながら、来年の施策、再来年の施策、どういうふうにバランスをとってやっていくかというのをよく考えていきたいなと思っております。

○阿部会長 そのあたりの社会の動きですね、周辺地域で諦めが先行してしまうと非常にさみしい状況ですので、是非、市のほうで検証しながらやっていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

③教育

○阿部会長 それでは、どんどん進んでまいりますけれども、3番目の教育のテーマに移りたいと思います。事務局のほうから、まず説明をお願いいたします。

○政策局長 はい。それでは、教育委員会事務局で作成をされた資料5に基づいてご説明をさせていただきます。

まず、1ページをお願いいたします。

本市では、中学校区単位の一貫教育、それから地域と保護者、学校の協働、これを柱としつつ、資料に記載の6つの政策によりまして、「自立に向かって成長する子ども」を育成することとしております。

2ページに移っていただきまして、本市の教育大綱におきましては、特に学力の向上と問題行動等の防止・解決、この2つを目標に掲げております。

まず、資料左上の学力の向上につきましては、小・中学校ともにテストでの無回答の割合が高く、特に中学校では全国平均を大きく下回っておりましたけれども、教育委員会が各学校の授業改善の状況を確認して、指導、助言を行うとともに、市独自の学力調査に基づく改善プランを児童・生徒一人一人に実施するなどしてきた結果、令和2年度までの目標としていた偏差値50や51に、ほぼ到達しているという状況でございます。

次に、資料右上の問題行動等の防止・解決につきましては、中学校の暴力行為や小学校の不登校が全国平均を大きく上回っていることを踏まえまして、具体事例に基づくケース会議ですとか研修会、こういったものを開催するとともに、道徳教育や学級活動の充実などに取り組んできましたが、これまでのところ、残念ながら改善できていないというのが現状でございます。

これらの現状などを踏まえまして、資料左下に「教育委員会の決意」といたしまして、今後の取組の方向性を4点ほど記載しております。さらなる学力向上、不登校抑制、英語教育、情報化、この4点でございますけれども、これらについて次の3ページ以降で今後

の目標や具体的な取組を説明させていただきます。

それでは、3ページをお願いいたします。

まず、1点目の、さらなる学力の向上につきましては、小・中学校ともに偏差値を51以上に向上させることを目標として、児童・生徒の意見交流活動を取り入れた授業づくりなどに取り組み、自ら考え、表現する力を向上させたいと考えております。

それから、2点目の不登校の未然防止につきましては、平成30年度の不登校の新規発生率は0.74%でしたけれども、これを0.47%以下に抑制することを目標として、全ての学校で連続欠席3日での家庭訪問、年間欠席10日以上での支援計画の作成などに取り組み、不登校の新規発生数を減少させます。

4ページをお願いいたします。

3点目の英語教育の推進につきましては、グローバル化の進展の中でコミュニケーション力や文化の多様性を尊重する姿勢を育みつつ、英語教育を推進する必要がありますけれども、現状では英検3級相当以上の中学3年生の割合は全国平均を下回っておりまして、英語の偏差値も49となっております。

そこで、英検3級相当以上の中学3年生の割合を50%以上にするとともに、英語の偏差値を50以上とすることを目標といたします。また、生徒の英語力を向上させるためには、教員の英語力の向上も必要でありますので、英検の準1級相当以上の教員の割合を50%以上とすることなどもあわせて目標としまして、小・中学校の英語担当教員が年2回、異校種の英語授業を参観するとともに、英会話重視の研修を実施して、授業改善につなげるといったことを行ってまいります。

次に、5ページをお願いいたします。

最後に、4点目の教育の情報化につきましては、世の中の情報化が進む中で、児童・生徒の情報活用の実践力や情報モラル等を育む必要がございます。

そこで、毎日の授業でICTを活用する児童・生徒の割合を100%にするとともに、授業でICTを活用することのできる教員の割合もあわせて100%にすることを目標といたします。

現在は、パソコンルームで児童・生徒がタブレット端末を共同使用している状態ですが、政府のGIGAスクール構想の前倒し方針なども踏まえまして、今年度末までに児童・生徒に1人1台の端末を配備すべく、既に5月補正等で予算措置を行っているところでございます。

それから、ICT活用研究指定校なるものを指定しまして、ICTを活用した授業づくりの研究を進めていきまして、効果的な取組を市全体に横展開することといたしております。

6ページ以降は参考資料となっております、偏差値の推移ですとか、暴力行為、不登校の推移、英語力の推移、こういったものを掲載しておりますので、あわせてご覧いただければと思います。

説明は以上になります。

○阿部会長 それでは、委員の皆様方からご発言をお願いしたいと思います、教育がご専門の高旗委員さんからお願ひできないでしょうか。

○高旗委員 はい、ご説明いただきましてありがとうございます。何からどういうふうにお話しすればというのを考えながらだったんですが。まず、先ほどご説明いただいた資料についての質問を先にさせていただいて、その後、幾つかご意見を申し上げられればと思っております。

1つは、不登校のことですけれども、資料1ですね、この2ページのデータを拝見したときに、ある意味で言うと、平成20年がかなり改善をされていたというふうに読めるデータですね。それがまたもとに戻って、しかも上がってきているという傾向にある。ただ、それは平成30年のデータですので、去年あるいは今年の感触あたりはどうなのかなというところが、一番、私自身、このデータを見ていて気になる場所でしたので、まずその点について教えていただくことは可能ですか。

○教育次長 まだ集計中ということで、公表できていない状況ではありますが、大きく数字が極端に改善しているかとか、それから右肩ではね上がっているかというのではなくて、同じような課題を持ちながら推移しているのではないかと私たちは考えているところでございます。

○高旗委員 ありがとうございます。私、まなプロの関係で、ある中学校区で、困難なところを抱えているところで、関わらせていただいているんですけど去年のところで、不登校や問題行動はかなり改善したということを知っていたものですから、そこと照らし合わ

せたときに、増えているデータが今回出てきましたので、ちょっと気になったということで確認をさせていただきました。ありがとうございました。

それでは、ここからは意見ということで幾つかお話をさせていただこうと思います。

まず、資料を離れるような格好で恐縮なんですけど、コロナ対策といいますか、そのあたりのことについて、これはお礼も含めてという形になろうかと思っています。前回のこの会議の場で、私、絶対に学校でクラスターを発生させないでいただきたいということを申し上げました。と同時に、学校を動かしていくという大変さというのが間違いなくあると思う、それは申し訳ないんだけど、是非、学校でクラスターはというようなことをお話ししたと思うんですが。夏休みに入りまして、幸い、岡山では先生の感染も子供の感染も出ていないというような状況だったと思うんです。それについては、本当にありがたいなと思っております。先生方の、本当にご努力に改めて敬意を表したいと思いますし、委員会の皆様、市の皆様のご尽力のおかげだと思っております。

ただ、夏休みに入りまして、学童保育の関係ですとか、そのあたりのことが動いておりますし、今後、若い世代の感染者が増えているというような事情もある中で、ひょっとしたら、そういうことが出てくるのかもしれない。学校の外側で感染された方が学校の中に来てというようなことが起こり得ると思いますので、万全の対策を講じることはもとよりなんですけれども、そのあたり、慎重に対応をお願いできればというふうに思っております。

もう一つ、教育の面で言いますと、感染をされた方への人権上の配慮といいますか、本当にそれは生きた教材だろうと思いますので、絶対にそういうことがあってはならないのだというようなことを強く、委員会としてもメッセージを出していきながら対応していただければと思っております。

それから、前回もそれをちらっと申し上げたんですけども、なかなか実現は難しいだろうなと思いつつも、私はそこにこだわるんですけども。分散登校を実施したところの例を伺いますと、人数が二十数人程度で子供たちを相手にするというのが、非常に目が届くと同時に、一人一人に応じるというようなことについて、物凄くよかった。なおかつ、分散ですので、同じことを2回やるというのは手間のように見えるんだけど、それによって教師の側が習熟するというようなこともある。というふうなことを考えたときに、やはり数、1学級当たりの子供の数というものが大きくあるなというふうに思いましたので、是非コロナ後ということを見据えたとき、あるいはウィズコロナ、アフターコロ

ナを見据えたときの1学級当たりの人数というところについてのご議論が是非いただけらなと思っております。

それから、資料に戻りまして、市のお考えが、学力の向上と、それから問題行動の防止及び解決という、この2本柱を大きく立てておられる。学力については、ほぼ達成された。これ、大変なご尽力がございましたと思います。何より、現場におられるお一人お一人の先生方が授業改善ということに向けて本気で取り組まれて、なおかつ個々の学校でも、授業改善の文化、その方法も含めて、学校を挙げた校内のOJTを動かしつつ、みんなで授業改善していくという雰囲気各校でできたということはもちろんですけども、小・中学校区の単位で、校区を超えた単位で、中学校区の問題として取り組んでこられたということの成果が着実にあらわれてきているのではないかと思います。

この流れを是非止めないでいただきたいことと、もう一つは、コロナの関係で学校の期間が少なくなったことで、我々が懸念しておりますのは、どうしても授業日数が短くて、なおかつ中学校なんかは入試の関係もありますので、詰め込み型の学習に回帰してしまうのではないかという懸念を強く覚えます。現実問題として、入試を前に控えている中学校では、そういう心配というのは当然あるわけですけども。しかしながら、せっかくこうやって積み上がってきた校内研修、授業改善の文化というものを生かしながら、本当の意味で子供たちを学習する主体にする授業というものに取り組んでいただき、それがあつ意味、全国学テのような結果としてあらわれるというような形をとっていただきたいなと思っております。

それから、不登校について、あるいは問題行動については、先ほど申し上げたとおりですが、特に不登校についても、これ、コロナが絡みますけれども、しばらく学校の休校期間がありました。報道等で見ている限りは、子供たちは学校が再開していることをとても喜んでいるように、私たちは受けとめました。しかしながら、何だ、学校へ行かなくてもできるじゃないかって思った子の中で、かえって、今までそういう傾向はなかったんですけども、学校に出ていきにくくなってしまっている子供たちというのも、間違いなく一定数いると思うんです。そういうことに関してのデータ取りというものを何らかの形で、できるだけ早い段階で進めていただきながら、その実態というものを押さえていただけないかなと思ってます。

それから、あとは感想めいたことになってしまうんですが、先ほどからの議論を伺っておりまして、私、委員の一人でありながら、今日はとてもいい勉強をさせていただいたな

と思いながら伺っておりました。教育というのは、それは高度経済成長期の頃からそういうふうに使われていた側面はあるんですが、実は地域を捨てさせる教育をしていたのではないかという言い方をしているんですね。本当にやらなければいけないのは、地域を生かす教育でなければならないのに、地域に暮らしている人材を学校というポンプで吸い上げて、都市に送り込んでいく、そういう作用をしていたのではないかという反省があるわけですね。

そのことを考えていきましたときに、かつて高度経済成長期に言われたように、村へ帰れというふうなことは、今なかなか言えない、質を変えた議論をしていかなきゃいけないと思うんですけども。先般、私、美咲町で仕事がありまして、その帰り、ちょっと時間があつたものですから、いつもと違うルートで帰ろうと思っていましたら、どういうわけか、県道の70号線というんですかね、70号線というのを走るようになって、建部とか御津とか、あのあたりを抜けていく、場所によっては離合もなかなか十分にできないような道を走ったんですけども。本当に空き家が非常に多くございました。点在をしています。そして一方で、わずかばかりの土地に、イノシシよけでしょうか、電気柵を非常に広域にわたって、はわせて、稲穂が青々と実っている。その脇を見ると、もう耕作放棄地のようにになっている、そういうのを繰り返しながら、光景を見ておりました。

こういうところを活性化していくために何をしなきゃいけないんだろうなということを考えながら走っていたんですけども、全国的に見れば、東京への一極集中なんですけど、地方で見れば、岡山市への一極集中ですね。当然、岡山市の中で首都圏があり、都市部があり、そして周辺部がありというような構造なんだろうと思います。そういうところへ人を定着させていくためには、教育もその価値観を変えていかなきゃいけない。ニューノーマルという言葉が、単なる手洗い、マスク、感染症予防という意味ではなくて、生き方の価値観を変えるところにつながっていくように、教育に携わる者がそのことを意識しながら、地域を生かす教育というところを考えつつ、特に総合的な学習の時間の充実ということになるかと思うんですけども、地域を知るといようなことを大事にした取組というものを語っていく必要が、これまで以上にあるのかなということを強く思いました。

すいません、長くなりましたけど、以上です。ありがとうございました。

○阿部会長 教育の部局から、何かご発言いただくことはございますか。特に、コロナの前後の関係、教育がどういうふうに影響を受けそうかとか、あるいはそれに対する市の対

応など、何かございましたらお願いいたします。

○教育次長 いろいろとご意見いただきまして、ありがとうございました。コロナ対策と
いいますか、コロナの中での学校生活というのは、私ども誰しもが経験していない、まさ
に予測不可能な状況の中で、何とか7月いっぱいまで乗り切ってきたというところでござ
います。学校は可能な限りの3密対策の徹底と、十分な消毒ということを繰り返しながら
ら、また子供たちへのマスクの着用、学校生活での注意事項等を徹底しながら、何とか乗
り切ってきたところでありますが、今後もこういったことを、もう学校の文化として根づ
かせることによって、学校での感染症対策ということを徹底していかなくてはならないと
考えているところでございます。

また、教育大綱の中で、学力向上とそれから問題行動等、不登校の対策を掲げているわ
けでありますけれども、この1学期の間、どういうことが起こっていたのか、先生からご
指摘がありました。不登校の状況というのは実際どうだったのかというものを、数字を
根拠に分析をして、また8月の末に、2学期再開を前に学校のほうに状況をしっかり発信
していきながら、対策をとっていきたいと考えているところでございます。

○杉山委員 僕たちの世代は、戦後のベビーブームの中で一生懸命、日本の経済を支え、
日本を発展させてきたという自負があるんですけど、こんなに何か日本、ひどい国をつく
ったのかなというのを最近、強く思っています。それは、実は大学生の中で退学率が非
常に高いんですね。それは多くの場合は、シングルのマザーとかファーザーの学生たちが
経済的困窮のゆえに、実は大学教育をギブアップしないといけない。恐らく、その芽は小
学校から見えていて、その一つの現象が、恐らく暴力行為、不登校、それから全国学力学
習状況調査無回答率の比率だろうと思っています。是非、簡単に取れると思うので、小学
校で一体、児童たちがどれぐらい経済的に困窮してるのか、それをしっかり押さえていた
だいて、できるだけそういう人たちを救うような、そういう政策をとっていただけたら
いいのではないかなと思います。

大学のほうは野放図に、奨学金はいっぱい出しますよ、その代わりに返してくださいとか
と言って、低利率は低利率なんですけど、恐らく、岡大でも平均数百万円、僕が就実
で調べたら、250万円、就職する4月1日というか、3月31日の段階で255万円ぐらい借金
を背負っている。それは、正直なこと言うと、そんな、働く気持ちも起きないぐらい、ひ

どいことを、実は僕たちはやっているんだろうと思って。確かに、高齢者に入っていった僕たちの世代の年金とか、それから医療・福祉で費用を使わないといけないかもしれないけれど、正直なこと言うと、これからの時代をつくる子供たちに徹底的にお金をかけるべきだろうと強く思います。

なので、是非、全国で取っていないのであれば、岡山市だけでもデータを取っていただいて、何か手が打てるのであれば、早目に手を打っていただくということを是非お願いしたいと思います。

○塩見委員 1つ、非常に学力が向上したんですが、私の地域の学校では早朝の時間を利用して、計算とか国語とか、すごい、先生の努力があったと聞いておりまして、大変感謝しております。それと同時に、教育は学校だけでなく、家庭の教育とか、それから地域での教育とか、そういうものの連携が非常に大切だと考えます。私たちは、地域の行事に参加してもらって、例えば夏祭りのときには中学生と一緒ににおにぎりをつくって、そして参加するボランティアの方々にすまし汁とおにぎりを食べていただくとか、そういうことをずっと続けてきたんです。今年はコロナでできませんけれども。そういう地域の人と一緒に活動した思いとか、そういうものが、やがて大きくなっても、地域を愛する、愛着を持つという子供に育つのではないかなと思います。コロナの後の状況がどうなるかというのが、なかなか見えないんですけども、1つ、地域協働学校の取組を一層充実させるとか、そういうことで取り組んでいただけたらと思っています。

○梶谷委員 本当に、教育ということでご尽力いただいて、学力の向上は、かなり達成してきていると思うんですが、ただ、今後の次期教育大綱に向けて、また学力向上がメインに出てくるのが本当にいいのかどうなのかというのを、一度検討していただきたいなと思っています。というのも、恐らく学力の定義が、今までとこれからで大きく変わってくるというふうに思います。今までの言うところのテストの点での、教科の点数での学力というものへの価値というのが、これから大きく変わってくるんじゃないのかな。今回のコロナでもそうですけども、答えのない、想定していない事態がこれからどんどん起きてくるという中で、そういう中でどう生きていくのか、いかに絶望的な状況からどれだけ立ち直れるかという、そんな力をどうつけるかということが重要になってくると思いますので、そういう観点での教育のあり方というのを根本から見直す時期ではないかなと思います。

す。

それから、先ほどありました地域協働学校、これは方向的に言うと学校運営協議会のある学校だと思いますけども。それとあわせて、先ほど地域とどう学校が、本当に教育で手を握っていくかと言うと、地域学校協働活動ですとか、せっかく岡山は、ある意味で言うと、岡山県の中でも進んでいると思っておりますので、そういったところを、より進めることによって、本当の意味での学力というか、子供たちの生きる力、そしてまた問題行動への防止といったところにつなげていただければいいんじゃないのかなと思っております。特に、学習指導要領も変わっておりますので、それらの対応をどうするかといったことも、もう少し出てきてもいいんだろうと思いました。

それから、ICTの活用ですけれども、これを活用することによって、教育そのものがどう変えられるのか。特に今、教育格差が地域によって出てきているという話もありますけれども、ICTを活用することによっては、地方の学校でもかなり高度なことが学べる時代にはなっていると思っておりますので、改めて、学校での学びと、自分の生き方とか地域の課題とをどう結びつけて、自分で課題を提起して、それを解決していく、それは個人だけではなくて、仲間とともに、その仲間というのも、同年代だけでなく、地域の大人とか異年齢と協働しながらやっていけるようなところを模索していただければと思います。

それから、今、岡山市で言うと、中学区までということ、中学校まで、幼稚園から中学校までを一貫ということでしたけれども、なかなか行政の単位が違うので難しいとは思いますが、一人の人間が中学校を卒業した後、高校、大学、必ずしも大学へ行く必要性があるかどうかは別として、そういった社会教育まで含めた、生涯学習を含めた上での学校教育、中学校の教育のあり方、小・中・高の教育のあり方といったところもご検討いただければありがたいと思っております。そういった意味で、企業の人材育成等も、学校がどう絡んでくるのかということも課題になってくるんじゃないのかなと思っております。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○前野委員 学力の向上と不登校の未然防止ということを目標に掲げられております。学力については向上されているということで、皆さんの努力の成果が出ていると思えますけれど、私自身は、必ずしも学力だけじゃないんですね。要するに、何が重要かと言うと、

例えば人間性といいますか、人の交流、協調性、そういったもの、それからもう一つは、例えば忍耐力ですね、そういったものを小さい頃から育てていく。例えば、暴力を振るったりとか、そういったことも、すぐキレたりするのは、忍耐力とか協調性、社会性、そういったものが欠如している子が多くなっているんじゃないかと思います。

ここは、学力の向上と不登校の未然防止という2つは掲げられているんですけども、私としてはもう一つ、そういった人間性というか、協調性というか、そういった社交性も育てるような柱がもう一本あっていいんじゃないかなと思いますので、検討していただけたらと思います。

○片山副会長 時間もありますので、簡単に。今後の日本を形成する存在としてということで、今年の7月1日付で文部科学省から、外国人の子供の就学促進及び就学状況の把握などに関する指針というのが出ております。それを見ますと、各地域で、地方自治体が外国人の子供の就学の促進というか、まず就学状況の把握ということをするようにと書いてございます。岡山市は、もう既にそれをやってらっしゃるのかもしれない、私が知らないのかもしれないんですが。もし、ないとすれば、やはり実態の把握ということと、その後、何がその人たちにとって足りないことがあるのかとか、また学校への円滑な受け入れとか、そういったことも含めて考えていただけるとありがたいと思います。多文化共生社会ということで、一言申し上げました。

それから、全然違うことといたらおかしいんですが、先ほど桃やブドウなどのことのお話が出ていまして、岡山のブランドとしての構築の中の一つに出ていましたけれども、実は、先日、留学生、困窮留学生に対して、岡山市から支援がありました。それは、留学生に桃を配ってくださるということでした。それで、いろんな支援の仕方というのはあると思うんですが、この桃を配るといというのは、非常におもしろいというか、非常にいいんじゃないかなと思いましたが、先生たちは岡山で有名なのは桃とマスクットですよと言っても、実際には食べたことがない、高過ぎて食べられないという学生ばかりなんですね。ですから、本当は知らないと言うんですが。それで今度は、それを一つ一つ配っていただくので、留学生にとっては一生忘れない、岡山の桃は、きっと一生忘れない味になるんじゃないかと思ひまして、感謝申し上げます。ありがとうございました。

○阿部会長 市長さんから、何か教育についてコメントございますか。

○大森市長 はい。実は、新型コロナウイルスの関係で、ゴールデンウィーク前に緊急事態宣言が出ました。その緊急事態宣言が出る前に、4月の頭に、当然ながら始業式、1学期が始まるというときがあったわけであります。そのとき、各自治体で、学校を始めるか始めないかというのが意見が分かれたわけであります。我々は、2つの視点から授業を始めようということを決めさせていただきました。1つの視点は、専門家会合の皆さん方が、岡山市のような状態であれば学校を始めてもオーケーですよという、そういう指標を流していただいていたというのが1つであります。もう一つが大きいんですけども、教育委員会の各皆さん方、当然ながら、それは前提として校長会の皆さん方が、是非授業を始めようということでもとまっていたということでもあります。

じゃあ、なぜ授業を始めるかということではありますが、始業式、1学期の授業、最初の授業というのは、当然ながらクラス替えがあります。先生が子供に最初に接するときでもあるわけでありまして、当然、途中から休校も予定されるだろうという推測のもとに、子供の性格とか、ある程度把握してないと、實際上始まって、休校になっても指導ができない。それは、是非始めさせてくれ、始めたいという話があって、我々としては学校を再開することにいたしました。私は非常に、教育委員会、そして学校の、個別の学校側が1つの方向で動いている証左じゃないかなと思っております。

実は、今から5年ぐらい前の話であります。先ほど、算数、数学、そして国語の成績をご覧いただいたと思いますけども、国語Bというのが全国最悪だったんです。国語Bというのは何なのかというと、国語の応用問題ということなんですけども、実は文章問題が出てきて、それに対して答えてない、いわゆる無回答率が圧倒的に多い。ということは、逆に言うと、文章が読めてない。だから、学力の向上というのはもちろんなんですけれども、世の中に出て、物を考えていく力、読んで何かをしようとする力というのが徹底的に不足しているということでありました。それから、先生方の努力が、私は相当あったと思います。先ほど、塩見さんが、近くの学校での、先生方、努力されているというようなお話をされてましたが、實際上、もちろん地域の方、保護者の方もいろいろな関与はあると思うんですが、子供たちにとってみると、先生というのは非常に大きい。だから、その先生が前に向こうとしているということが、どんどん出来てきているということなんじゃないかなと思います。それが今回の新型コロナウイルスの関係の始業式に結びついたんだと私は思っております。

そういう面では、傾向として非常に、今、岡山市の教育行政、うまくいってるんじゃないのかなと思っているところでもあります。教育長の何げない一言で、こういうのがありました。「中学校は本当に変わったな」というのを、教育委員会の中で話をされているのを横で聞きました。そういう面で、今この教育大綱で整理したこと自体が、前にうまく動いていっている。単純に、どこかのいい学校に入るための学力向上というのを、我々は求めているわけではありません。だから、この学力向上の中に、これからいろいろなことを考え、成長していく子供たちの何かの基盤となるような、そういうものがつくればなというところであります。

これからの、次の教育大綱、今年度中につくらなければならないわけではありますが、今の方向性を堅持していくとともに、まだ足りない部分というのは一体何なんだろうということを議論しながら、先ほどご指摘をいただいたような点を含めて、整理させていただきたいなと思います。

以上です。

○阿部会長 大森市長さんから、非常に心強いご発言をいただいて、ありがとうございます。

それでは、大体予定の時間が来ております。教育のテーマにつきましては、このあたりで締めたいと思います。

その他がございしますが、これについて事務局から何かございますでしょうか。

5 その他

○事務局 基本政策審議会の今後の開催につきましては、また調整させていただきますので、別途ご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○阿部会長 はい、ありがとうございました。次回の開催につきましては、事務局から別途連絡があるということでございます。そのときには委員の皆様方、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の予定しておりました案件は全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返しします。

6 閉会

○司会 それでは、閉会に当たりまして大森市長からご挨拶申し上げます。

○大森市長 皆さん、今日はどうもありがとうございました。いただいた意見を参考に整理させていただきたいと思います。10月頃には、後期中期計画の素案をここでお示しをさせていただきたいと思います。そして、揉んでいただいて、これから5年間の大きな指針にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○司会 それでは、これもちまして基本政策審議会を閉会いたします。皆様、ありがとうございました。